

令和２年度第１回幕別町総合教育会議議事録

１ 開催日時 令和２年７月27日（月）午後１時～午後２時45分

２ 開催場所 幕別町役場２階会議室Ａ・Ｂ

３ 出席委員（６名）

幕別町長	飯田 晴義
幕別町教育委員会教育長	菅野 勇次
教育委員	小尾 一彦
教育委員	瀧本 洋次
教育委員	國安 環
教育委員	東 みどり

４ 日程

（１）開会挨拶

（２）意見交換

- ① 幕別町学校施設の長寿命化計画（素案）について
- ② 幕別町スポーツ推進計画の策定について

５ 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山岸 伸雄
〃 政策推進課長	白坂 博司
〃 政策推進課副主幹	小寺 博志
幕別町教育委員会教育部長	山端 広和
〃 学校教育課長	宮田 哲
〃 生涯学習課長	石田 晋一
〃 学校給食センター所長	鯨岡 健
〃 図書館館長	武田 健吾
〃 学校教育課総務係長	山田 慎一
〃 学校教育課学校教育係長	酒井 貴範
〃 生涯学習課社会体育係長	甲谷 英司

６ 傍聴者

２名

7 議事録

【開会挨拶】

(政策推進課長)

定刻となりましたのでただいまから令和2年度第1回幕別町総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、飯田町長からご挨拶を申し上げます。

(町長)

皆さんこんにちは。

前回の令和元年度の最後の会議から約半年振りの開催になりますが、この間、2月28日には北海道独自の緊急事態宣言があり、そこから約3ヶ月に渡っての自粛期間が続きました。社会経済活動はもちろん、行政側の動きもなかなか予定していたことが順調に進まない状況となりました。

学校においては、休業途中あるいは休みが明けてから、子どもたちがストレスを抱えながら日々を過ごしていました。

現実に学校現場でコロナウイルス感染者が出た場合、どう対応していくか、非常に難しい対応を迫られていたと思います。他の町をみていると一斉に臨時休校はなくて、感染の広まり状況の中では必要最小限の休みに留めて学校を再開するという状況にありますが、本町においてはこのようなことが起きないようにしたいと考えています。

本日の協議事項は、幕別町学校施設の長寿命化計画と幕別町スポーツ推進計画の策定でございますが、しっかり皆さんと意見交換を行って参りたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

【総合教育会議意見交換】

(町長)

それでは協議事項に入り意見交換をさせていただきたいと思います。

まず、幕別町学校施設の長寿命化計画（素案）について説明をお願いします。

(学校教育課長)

それでは、私から幕別町学校施設の長寿命化計画（素案）について、ご説明いたします。

先ほどの町長の挨拶にもありましたが、令和元年度第2回幕別町総合教育会議において、長寿命化計画の一要素である各学校の劣化度調査の状況について説明いたしましたが、今回は計画本体の素案がまとまりましたので、ご説明させていただきます。

お配りしております、長寿命化計画素案の1ページ目をご覧ください。

「(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等」の①背景として、本町の小中学校の施設は昭和50年代に多くが建設され、一斉に更新時期を迎えつつあります。最後の段落になりますが、今後、学校施設の維持管理、老朽化に伴う長寿命化等に取り組むに当たり、厳し

い財政状況のもと、施設の安全性を確保し機能向上を図っていくためには、校舎等の使用年数を延ばし、財政負担の平準化に寄与する長寿命化の導入を検討する必要があります。

②目的では、これまでの対処療法的な保全方法から計画的に予防的な保全方法へと維持管理手法を転換することで、中長期的な維持管理等に係る経費のトータルコストの縮減や平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能や性能を確保することを目的とします。

③計画期間は、2021 年度から今後 40 年を見通すものとし、計画期間は 2021 年度から 2030 年度の 10 年間とし、5 年ごとに見直しを実施するものです。

次に 2 ページをご覧ください。

「(2) 学校施設の目指すべき姿」として、学校・家庭・地域と一体となる施設として、安全性、これからの学習活動への適応性、地域の拠点化について記載しております。

1、安全性については、すでに本町の小中学校については耐震化が済んでおりますが、災害時の避難所として活用できるよう、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインを取り入れる等のバリアフリー化を念頭に施設整備を進めていくこととしました。

2、学習活動への適応性として、今後の教育活動の変化に対応して ICT 化への対応や、省エネ性能の高い機器類の導入を念頭に整備を進める必要について記載しております。

3、地域の拠点化として、学校施設は地域の避難所となる場所のほか、令和元年度から始まりましたコミュニティスクールの導入により、地域住民の活動拠点としてのニーズにも対応できるよう維持管理を進めることを記載しております。

次に 3 ページをご覧ください。

3 ページからは「(3) 学校施設の実態」として、学校の現在の状況を 10 ページにかけて記載しております。3 ページには 1) 対象施設一覧として、町内各学校の校舎、屋内運動場の建築年度と面積の一覧、4 ページには 2) 学校施設の配置状況、5 ページには 3) 児童生徒数・学級数の推移として、幕別町人口ビジョンを基に 1975 年～2060 年までの推計を記載しております。上段の棒グラフは小学校、中学校の児童生徒数を、折れ線グラフは小中学校の普通学級、特別支援学級を表したものとなっております。あくまで推計ではありますが、児童生徒数が今後減少傾向にある中で、それに準じて普通学級も減少傾向を示しておりますが、特別支援学級の数が増加傾向にあることが特徴的です。

次に 6 ページをご覧ください。

上段の表は、「(4) 学校施設の保有量」として、築年数別に建物面積をグラフに表したものに なります。薄くピンクに色づけされたところから左側が築 30 年以上経過した建物の分布となります。一見してわかるとおり、本町の学校施設は老朽化が進んでいる学校が多いことがわかります。下段の「(5) 学校施設の劣化状況」については、前回お示した劣化調査の状況を 8 ページまでにまとめて記載しております。

次に 9 ページをご覧ください。

こちらは、「(6) 今後の維持・更新コストの提案内容」となっております。まずは 9 ページには従来型として、耐用年数を迎えた施設を改築していく試算でグラフ化したものとな

っております。図の右上になりますが、今後40年間の総額でおよそ260億円のコストがかかるとの試算が出ております。平均しても年6.4億円のコストが毎年かかる計算となっております。

次に10ページをご覧ください。

こちらは「7）今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）」として、改築ではなく長寿命化改修を図り、校舎等を築後80年まで利用するための試算になります。コスト計算を改築の6割として計算し、一校3年のスパン、これは、実施設計に1年、工事に2年として順次改修していく計算をいたしました。その結果、図の右上になりますが、40年間の総額がおよそ170億円、90億円近くのコストの縮減となり、年間平均で4億円の試算と、2.4億円のコスト縮減になる結果となりました。改修内容等については次のページになります。

次に11ページをご覧ください。

「（4）学校施設整備の基本的な方針等」として、①学校施設の長寿命化計画の基本方針の1点目として予防保全による長寿命化の推進としまして、もととなります幕別町公共施設等総合管理計画の維持管理・整備方針から、長寿命化計画の基本方針を定めております。

次に12ページをご覧ください。

②改修等の基本的な方針として、（1）方針では、建物を約80年間使用できるように改修していくことでトータルコストを抑えるものです。

（2）整備内容では、整備の進め方では、改修は、校舎を優先とするが、屋体についても劣化状況を考慮して実施し、個別の整備内容や手法等については、本町の財政状況を十分に考慮して、毎年度、総合計画3ヵ年実施計画とあわせて協議するとしています。老朽化の対応として、長期間使用に耐えうるように改修するために、水道、ガス、電気等のライフラインの更新、壁、床、天井の断熱化等、各学校の事情に合わせて個別に改修を進めてまいります。学習環境の変化での対応として、ICT化に対応した教育環境を整備するため、教育機器の拡充や機能性を向上させます。バリアフリー化では、地域の避難所としての利用される側面も考慮して、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを取り入れる等のバリアフリー化も念頭に改修を図ってまいります。

次に13ページをご覧ください。

こちらは長寿命化にした際のイメージ図になります。これまでの改築中心のイメージでは、築後40から50年で改築していくスパンであります。長寿命化改修をはさむことで建物寿命を延命させ、改築まで80年ほど延ばすことが可能となります。

次に14ページをご覧ください。

こちらは「（5）長寿命化の実施計画」として、①長寿命化改修等の優先順位として、改修する学校の優先順位を表したものになります。10年を一区切りとして第1期から第4期まで順位をつけました。直近の10年間で整備する学校は、幕別小学校の校舎、屋内運動場、糠内小学校の屋内運動場、明倫小学校の屋内運動場、札内南小学校の校舎、屋内運動場、札内北小学校の校舎、糠内中学校の校舎としました。幕別中学校の校舎については、築後20

年が経過することから予防補修としての長寿命化改修を予定しています。

最後に 15 ページをご覧ください。

②長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針では、5 行目からになりますが、今後の学校施設の保全に当たっては、維持・更新コストの縮減を図る一方で、施設の運営・活用についても検討する必要があるとするものです。

「(6) 長寿命化計画の継続的運用方針」では、①情報基盤の整備と活用として、4 行目からになりますが、今後は日常の点検・調査の結果及び各年度の公立学校施設台帳に基づいて適切に更新を図り、一元管理するとともに、先進的な取組から経費削減に向けた技術や情報等を積極的に取得し、適切な整備を行っていくとします。②推進体制の整備では、幕別町公共施設等総合管理計画との整合性を図りつつ、施設の設置者として定期的に点検・調査を行い、学校管理者である校長と連携し、施設の状況把握に努めるとともに、建築担当部署からの助言を受けながら効率的・効果的な施設のマネジメントを総合的に進めていきます。

③フォローアップでは、本計画は 10 年計画とし 5 年ごとに見直しを行うこととしております。

最後に今後についてであります。町内 5 学園の学校運営協議会で説明をし、パブリックコメントを実施した後、今年度中に策定する予定となっています。

以上で説明を終わらせていただきます。

(町長)

ただ今の説明に関しまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(國安委員)

資料 1 の 12 ページに「学習環境の変化への対応」として「ICT 化に対応した教育環境」とありますが、5G になってくると健康面などへの影響が懸念される中、学校としてどういった整備をしていくのかお聞かせ願います。

(学校教育課長)

現在、国における GIGA スクール構想におきまして、学校の ICT 環境の整備を行っているところであります。5G の詳細についてまだ状況が見えていない現状があることから、まずは生徒がストレスなく端末を利用できる状況を整備することを目標に整備を進めてまいりたいと考えています。5G については、国の動向を見極めながら、整備の有無について検討を進めていきます。

(町長)

まずは学校内で 1 人 1 台端末があたって誰もが使用できるようにする、そしてそこにはストレスが溜まらないような環境にすることが第一で、次にコロナで休業になった時にリ

モート授業で使えるようになってくると思います。GIGA スクール構想がコロナ対策で前倒しになりましたが、学校現場はきちんと活用できるのかと思いますが、現在の進捗状況を事務局よりお伝えします。

（学校教育課長）

今年度中に1人1台端末を整備する予定ですが、整備を進めながら研修センターで開催されるICT研修を活用するほか、学校にはICTに長けた先生も多数いるのでその先生の力も借りながら端末をうまく使いこなせるように進めていきたいと考えています。

（町長）

この整備は令和2年度で整備が終わって令和3年4月から実用化となりますが、すぐに使っていくことは難しいと考える。何を題材として取り上げていくか、端末をどのくらいの時間使用するか等、授業の内容を組み立てたうえでICTをいかに使っていくかということになると思いますが、その辺は今後詰めていくということですね。

（教育長）

年度の学習計画を立てる中で、今後、各学校で決めていくことになると思います。最近の教科書にはQRコードが記載されており、それを読み込むことで発展的な学習内容が表示されるので、それも活用しながら端末を使用していくことになると思いますが、具体的な端末の使い方については端末が配布されてから先生たちも練習していく状況になると思います。

（町長）

健康に対する影響面の対応策の検討についてはまだ先のことになると思いますが、光回線の整備後に5Gが整備されることから、まずは来年度に地域創生臨時交付金を活用して光回線の整備を行う予定です。

（町長）

そのほか、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

（瀧本委員）

トイレやグラウンド等の学校の付随施設も改修していく必要があると思いますが、今回の長寿命化計画の一部に加える予定はありますか。

（学校教育課長）

今回の長寿命化計画と合わせて、トイレやグラウンドの改修も行っていきたいと考えています。

(町長)

財源があれば改修を行うことが可能だが、それはなかなか難しい。交付金の単年度の上限はあるのか。長寿命化改修以外の改修は対象外となるのか。

(学校教育課長)

長寿命化改修の単年度の上限はありません。予防改修の上限は1億円です。長寿命化以外の改修は交付金の対象外となります。

(教育長)

学校全体を一緒に改修することでその費用が安くなることもあるので、できれば一緒に改修したいと考えています。

(瀧本委員)

知恵を絞っていただいて子ども達が快適に使えるように整備いただきたい。

(町長)

そのほか、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(東委員)

配布資料1の14ページの(5)長寿命化の実施計画では、第1期に予防の観点で幕別中学校の長寿命化改修を行っていくとあるが、どのように予防を行っていくのか方向性が決まっていれば教えていただきたい。

(学校教育課長)

長寿命化改修箇所については大きくは壁・床・天井を考えていますが、個別の箇所については、今後、予算組みですとか、学校側と協議しながら進めていきます。

長寿命化改修は躯体や配管関係のライフラインに係る改修、予防の改修はひび割れ等の表面的な傷みに対する改修となります。

(東委員)

学校へ通う子ども達、施設を使う地域の方々が少しでも快適に改修を進めていただければと思います。

(町長)

そのほか、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(小尾委員)

配布資料 1 の 12 ページの (1) 方針では、建物を 80 年間使用できるように改修していくとありますが、町民にどのように説明して理解を得ようとしているのかをお聞かせ願います。

(町長)

通常は耐用年数 40 年である建物を長寿命化改修することで、80 年間使用できるようにします。既に耐震工事は完了していますし、建物自体も危険性なく安心感を持てると思います。

(学校教育課長)

周知に関しては、学校運営協議会の中でこの長寿命化計画の内容を説明させていただきたいと考えています。

(町長)

この長寿命化計画の実施にあたっては、40 年間の実施計画ではあるが、町の 3 ヶ年実施計画に計上した中で、事業内容や事業費の具体的な数字が出てくる。いかにスピード感をもってやっていくかが大事。

(教育長)

町が実施する全体の事業費のうち、町の実質負担は 30% 程度。一時的な負担は 7 ～ 8 %。財政状況を鑑みながら、できる限り改修を行っていきたいと考えています。

(町長)

それでは、協議事項 1 につきましては、この辺りで終了とさせていただきます。
続きまして、協議事項 2 「幕別町スポーツ推進計画の策定」について説明をお願いします。

(生涯学習課長)

「幕別町スポーツ推進計画の策定」について説明させていただきます。

資料 2 「スポーツ推進計画の策定に向けて」の 1 ページをご覧ください。

まず、スポーツ推進計画の策定にあたっての現状といたしまして、平成 30 年度から今年度までの 3 年間で地方創生推進交付金事業を活用し、「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」として、町民が運動・スポーツを運動・スポーツを見る・する・楽しむ機会を創り、地域に根ざしたスポーツコミュニティを確立する事業を展開しています。

子どもたちや指導者を対象としたイベントや研修会、大学の合宿や大会誘致・開催の実績を重ねるとともに、高木姉妹の平昌五輪での金メダル獲得の影響もあり、“スポーツ” や “オリンピック” のまちとしてのイメージが徐々にではありますが、町内外に浸透しつつある状況です。

大学の合宿では、2年連続で慶應義塾体育会野球部の合宿受入を行っております。今年度については新型コロナウイルスの影響で8月の合宿は残念ながら中止となりましたが、昨年においては幕別町での合宿後に東京6大学秋季リーグ戦で見事優勝し、その後の明治神宮野球大会でも全日本一を獲得したところであり、とても有意義なものだったのではないかと嬉しく思うところであります。また、大会誘致につきましては、昨年度におきまして車椅子ラグビーの日本選手権大会予選リーグを札内スポーツセンターで開催しました。大会に関わるボランティアの募集を行ったところ、90人を超える申し込みがあり、前日の準備から合わせて3日間にわたり大会の運営を手伝っていただきました。試合の様子につきましても、世界に向けてライブ配信される等、パラスポーツの普及を目的とした事業として大変有意義な事業であったと自負しているところです。

また、昨年10月に、無作為で抽出した町民で構成した「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」で今後のスポーツを軸とした町の施策に対して提言を受けたところがあります。そのなかで、課題として、他分野との連動がしない啓発の薄い単発事業と見受けられることもあり、まだまだ町民がスポーツを軸としたまちづくりの意識が希薄である状況であります。

このことを踏まえ、今後も引き続きスポーツのまちづくりとして、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「スポーツ推進計画」を策定することで、スポーツ振興に対する全町一体となった機運醸成が期待できるものと考えています。

なお、「スポーツ推進計画」は、スポーツ基本法に基づいた計画であり、スポーツ推進計画として単独で策定している道内市町村は20市町村、十勝管内では現在ありません。

2ページをご覧ください。

上段のスポーツ推進計画の特徴といたしまして、全国的に計画期間は3年から5年までとなっており、目的といたしましては、スポーツの振興及びスポーツを活用したまちづくりや地域振興をより一層推進するための基本的な方向性を示すためとなっています。

計画の構成として、基本方向や施策を羅列しただけの計画もあれば、数値目標を設定したうえで、どのような方向や施策を展開していくかという計画もあり、さまざまありますが、国は、数値目標を設定するよう奨励しているところであります。

中段になりますが、計画の策定にあたっての基本的な考え方として、幕別町総合計画の基本構想や幕別町まち・ひと・しごと・創生総合戦略の内容を踏まえて、スポーツのまちづくりの基本構想となる「スポーツの町宣言」を制定します。その基本構想をベースに、国や北海道の「スポーツ基本計画」や昨年10月に提言をいただいた「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」の内容を盛り込み、スポーツに関する施策を体系化した「スポーツ推進計画」を策定するものであります。また、町の教育や生涯学習、健康・福祉、経済・産業など他分野の個別計画と連携した計画にするものであります。

下段になりますが、策定にあたってのスケジュールとして、今月に庁内部で組織した検討委員会で課題や施策の洗い出しを依頼し、来月に課題や施策を整理していきます。「スポー

ツの町宣言」については、現段階で宣言することを案としておりますが、今後開催されます検討委員会において宣言をするかしないかを検討いたします。9月には、学識研究者として、町と連携協定を締結している日本体育大学の専門教授から全国の事例に基づき、町の特色を生かした提案をいただき、また、体育連盟やスポーツ推進委員会、スポーツ少年団、学校からスポーツ施策等における意見をいただくことを予定しています。10月には、庁内検討委員会、スポーツ推進委員会、社会教育委員会に素案を検討し、11月に教育委員会会議で素案を決定することにしていきます。12月には住民からのパブリックコメントを募集し、来年1月にパブリックコメントの結果を教育委員会、庁内検討委員会、総合教育会議に報告し、案を確認していき、2月には教育委員会会議で案を決定していくこととしております。

3ページをご覧ください。

計画の策定構成であります。上段の章の「スポーツ推進計画の策定」にあたっては、計画の基本的な事項を掲載することになります。その下の段の章として、「基本目標と基本方向」は具体的にスポーツのまちづくりの方向性を掲載するものであります。

ここで、資料2『町民と考えるオリンピックの町ワークショップ』からの5つの提言書の3ページをご覧ください。

こちらには「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」における5つの提言をまとめております。

1つ目として、オリンピックを「応援する」雰囲気を醸成しよう、2つ目は、子どもたちのスポーツを「支えよう」、3つ目は、スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう、4つ目は運動やスポーツがしやすい「環境」をつくろう、そして最後の5つ目は「アスリートと食」を幕別町の中心に据えようとなっております。

この5つの提言内容は、先ほどの資料2「スポーツ推進計画の策定について」の3ページにあります。「基本目標と基本方向」の節に反映しています。まずは、スポーツを「見る」、「応援する」をすることで興味を持ち、そして、スポーツを「する」きっかけをつくり、そして、スポーツをするうえで、「支える」基盤を整え、スポーツがしやすい「環境」をつくり、最終的にはスポーツを通じて、「オリンピックの町・幕別町」を町内外に発信するという流れで構成します。項は、その目標に向かって行う施策の方向を掲載するものとなります。

以上で、説明を終わらせていただきます。

(町長)

ただ今の説明に関しまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(小尾委員)

コロナ禍の影響で東京オリンピックが1年延期となり、国内でもオリンピックのことよりコロナに意識が向いている状況だが、幕別町はオリンピックのまちということもあり、町

民のオリンピック選手、オリンピックへの関心は高いと思います。その中でこのスポーツ推進計画がいかにその意識を持続させるかということが大切ではないかと思います。

（生涯学習課長）

今年度につきましてもコロナの影響により7月のパラスポーツイベントは延期、8月の合宿受入は中止となり、この状況の中でいかに町民の意識を持続していくかが大事だと考えております。昨年度に行いまいました、スポーツセンター及びトレーニングセンターのレガシー展示ですが、先月に内容を冬のものから夏のものに衣替えし、また、この後も忠類コミュニティセンターを会場として移動展示を行う予定です。そういった環境をつくることで、子ども達やスポーツする方に対してオリンピックやオリンピックが身近な存在になるようにしていけるかなと思っています。あと、展示の現役オリンピック5人の写真をスマホで写すことで、そのオリンピックからのメッセージを見ることができます。今後もSNSを活用した事業を展開していきます。

（町長）

スポーツ推進計画を作って町民が広くスポーツに取り組む、機運を盛り上げることはなかなか簡単ではないと思う。アスリートの活躍する姿を見て、子ども達はあの選手になりたい、オリンピックに出たいなと思うが、大多数の大人の機運を盛り上げるのは簡単ではないと思う。

（瀧本委員）

私もそう感じていました。スポーツに関心を持ってもらうには参加して感じてもらうことが大事と思いますが、ボランティアを集めることができるような環境づくりをすることによって子どもから年配の方までの関心を持ってもらえると思います。

（町長）

その他、皆さんからご意見等ございますでしょうか。

（國安委員）

車椅子ラグビーのボランティアが90人集まったことがすごいと思いますが、その集め方を参考に広まっていけば良いと思います。体験の後は実践というように、1つの流れになっていると良いと思う。町には素晴らしい施設がたくさんあるが、何時から何時まで何のスポーツができる等、どういったことが施設でできるかが周知されていないと思うので、もう少し周知してもらえると、気軽にスポーツできる環境になりさらに広がっていくと思う。

(町長)

おっしゃっていることはわかります。施設に行っても運動するってけっこうハードルが高い。施設に行っても何のスポーツができるかわからないですね。どんなスポーツができるか等の周知は大切だと感じました。

(教育長)

車椅子ラグビー日本選手権大会予選リーグの時のボランティア 90 人はどうやって集めたのか。

(生涯学習課長)

車椅子ラグビーの団体からかなり呼びかけをしていただきましたし、帯広高等看護学校や帯広大谷短期大学からも人がきました。それらから広がっていったと思われます。

(教育長)

幕別清陵高等学校にはスポーツ＆ヘルスコースがあるので、ボランティアを集めるときに連携できるのではないかと思います。

(東委員)

町内でオリンピックのイベントを開催していると思いますが、参加者以外の人でも受け入れるようにしたら、スポーツに興味を持ってもらえると思います。以前、スケート教室を娘と一緒に見学したことがきっかけで、親子でスケートするようになりました。

(町長)

申し込みがなくても見学は自由だとか、参加枠に余裕があれば当日来てもらっても参加できるとか告知すれば違うと思います。

(教育長)

現在、町内中学校で使用している保健体育の教科書にスポーツ推進計画のことが書かれており、その記載内容の最後に「自分の住んでいる自治体のスポーツ推進計画をインターネットで検索してみよう」と書かれており、うちの町の計画は策定されていないため、子ども達はどう思うかなと思いました。オリンピックのまちということもありますので、まずはスポーツ推進計画を策定しようというところであります。

(町長)

それでは、協議事項 2 につきましては、この辺りで終了とさせていただきます。
事務局から連絡事項などありましたらお願いします。

（政策推進課長）

次回の会議は1月頃を予定しています。詳細が決まりましたら、別途ご連絡いたします。

（町長）

それでは、以上で令和2年度第1回幕別町総合教育会議を終了します。

本日はどうもありがとうございました。